

会員各位

岐阜県病院薬剤師会
会長 遠藤 秀治

第 272 回岐阜県病院薬剤師会研修会・実務研修会開催のご案内

拝啓

時下、先生におかれましては、ますますご清祥のことと存じます。
さて、今回は病棟薬剤業務実施についての実務研修会を企画しました。下記のとおり開催しますので、奮ってご参加頂きますようご案内致します。

敬具

記

日時：平成 24 年 12 月 22 日（土）午後 2 時 30 分より
場所：長良川国際会議場 4 階 大会議室
岐阜市長良福光 2695 - 2 Tel (058) 296 - 1200

【内容】 総合司会 岐阜県総合医療センター 薬剤部 関谷 猛

1. 会長挨拶

2. 実務研修会

2-1 教育講演

「日本薬剤師会の生涯教育と生涯学習支援システム JPALS について」

日本薬剤師会理事・岐阜県薬剤師会常務理事 近藤 剛弘 先生

2-2 ワークショップ：病棟薬剤業務の実施について

「病棟薬剤業務の注意点」

岐阜県総合医療センター 薬剤部 平下 智之 先生

アドバイザー

社会医療法人財団互惠会大船中央病院薬剤部 部長 越 亮寛 先生

参加費：薬剤師会会員 500 円 非会員 2000 円

* 当研修会は岐阜県病院薬剤師会研修制度及び日本薬剤師研修センター研修制度に該当する研修会です。

主催 岐阜県病院薬剤師会

学術講演会のご案内

謹啓

時下、先生におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、このたび下記のとおり学術講演会を開催させていただき運びとなりました。
ご多忙中誠に恐縮に存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようご案内申し上げます。

謹白

記

日時：平成24年12月22日（土）午後4時00分より

場所：長良川国際会議場 4階 大会議室

岐阜市長良福光 2695-2 TEL (058) 296—1200

■製品紹介

『 Meiji のジェネリック 』

Meiji Seika ファルマ株式会社 宮下 洋一

■特別講演

座長 岐阜市民病院 薬剤部長 後藤 千寿 先生

『 地域中規模病院における薬剤師業務の展開

病棟薬剤業務実施加算算定後を含めて 』

社会医療法人財団互惠会大船中央病院薬剤部

部長 舟越 亮寛 先生

共催 岐阜県病院薬剤師会

Meiji Seika ファルマ株式会社

※ 講演会終了後、グループディスカッションを計画しております。

地域中規模病院における薬剤師業務の展開
—病棟薬剤業務実施加算算定後を含めて—

社会医療法人財団互惠会大船中央病院薬剤部 部長
舟越 亮寛

平成 24 年度医科診療報酬改定により待望の病棟薬剤業務実施加算が全入院患者対象に新設され半年が経過した。医師負担軽減目的と言えど入院基本料にひもづく加算（DPC 病院では係数化）は画期的なことである。しかしながら多くの施設で全病棟に専任薬剤師を配置するための人員確保、病棟薬剤業務実施加算と薬剤管理指導料の業務内容の棲み分けなど算定申請するには多くの解決しなければならない課題がある。

病棟薬剤業務実施加算を平成 24 年 4 月当初より申請することができた地域中規模病院として、これまでの薬剤部の業務展開ならびに今後の薬剤部中長期計画について紹介する。

平成 12 年より切れ目のない医薬品管理と薬物治療への参画を薬剤部ビジョンとして中長期計画を立て理事会の承認を得て実行した。まずは平成 12 年に入院予定患者対象に入院前に持参薬確認を開始し、平成 14 年に 3 病棟のみ病棟常駐化した。平成 19 年 7 病棟全病棟常駐化を達成することができた。一方注射薬安全管理として平成 16 年に日曜祝祭日を含めた 365 日化学療法、中心静脈栄養の無菌調製を開始した。さらに薬剤師による処方変更等院内ライセンス制度導入した上で平成 21 年に手術室薬剤管理開始、平成 22 年より静脈注射以外の末梢注射薬も 365 日全日調製実施に拡大した。他に画像・内視鏡検査等外来診療における服用薬管理へ 1 名常駐化など医薬品安全管理のためには薬剤師の存在が重要であることをより浸透させる組織を構築した。特に当院の場合は入院患者全員に顔の見える薬剤師として従来看護部で行っていた入院患者満足度調査に薬剤師の評価も追加し年次評価をとっている。専任では全入院患者からの薬剤師の認識度は 30%程度であったが常駐化することで 80%強となった。さらに院内ライセンス制度により医師との CDTM(collaborative drug therapy management)が徐々に浸透しつつある。

薬剤部人員増員計画は平成 23 年度までに終了し、この 12 年間で薬剤師数 13 名から 25 名へと 10 名以上増員され、また事務助手も 2 名から 4 名へと増員でき薬剤部員として 29 名の定員となった。結果論ではあるが、加算ありきでなく患者のニーズに答えるよう各医療スタッフのニーズを真摯に受け止め、まず試行的に実施することが大切である。そして実行後の業務量と効果を必ず検証するといった、いわゆる PDCA サイクルを業務において浸透させる。その上で 5 か年計画程度の中期的計画を立て薬剤部ビジョンを経営者と薬剤部長が折衝する手腕が求められる。

今後の課題としては、病棟薬剤業務実施時間の自動登録・集計機能を試行的に導入し、日誌自体も電子化を試行的に実施している。また、薬剤師を 1 病棟あたり 1.5 名配置体制移行へ移行中である。

略歴 2012.11 現在

舟越 亮寛 (Ryohkan Funakoshi)

職歴

- 1999 年 城西大学薬学部薬学科卒業
2000 年 東京大学医学部附属病院研修生修了
(虎の門病院・好仁会薬局 各 2 ヶ月間非常勤職員)
2000 年 社会医療法人財団互惠会 大船中央病院薬剤部入職
2005 年 治験事務局長
2006 年 薬剤部部长

社会活動

- 社会医療法人財団互惠会 評議員
日本病院薬剤師会 医薬情報委員会プレアボイド評価小委員会 委員
日本病院薬剤師会 中小病院委員会 委員
神奈川県病院薬剤師会 理事
神奈川県病院薬剤師会 ファーマシーマネジメント委員会 委員長
日本医薬品情報学会 フォーラム委員会 委員
東京大学・昭和薬科大学・横浜薬科大学 各大学非常勤講師
東京薬科大学 客員教授 (別途：臨床薬効解析学教室 客員研究員)
日本経済大学 大学院 非常勤講師

所属学会

- 日本緩和医療学会、日本静脈経腸栄養学会、日本環境感染学会
日本薬学会、日本医療薬学会、日本医薬品情報学会、日本緩和医療薬学会、
日本病院薬剤師会、神奈川県病院薬剤師会

書著 その他略

- (執筆) 日本麻酔科学会 周術期管理チームテキスト 2012
(編集) 南山堂 周術期における薬学的管理 2012 編集委員
(編集) じほう ジェネリック初収載ガイド 編集委員